

# サクラの整備計画と平成23年実施報告

木原 靖正

## ○整備計画

### 基本方針

日本人にとってサクラは、親しみ深い樹木であり、春、花見をする習慣は、全国的に行われ、広島市においても例外ではない。

当園でも、サクラの季節にソメイヨシノを中心にサクラまつりを実施しており、多くの入園者がある。

今後、将来においてもこの傾向は長く続くものと予想される。

このため、当公園のサクラを維持し、新規に植栽することは、市民の需要に即したものと考えられ、より一層の入園者の増加が期待される。

### 現況と課題

当公園のサクラは、ほとんどが開園当初(1976年)に植栽され、現在に至っている。種類は、野生種10種、園芸種50品種が約100本あり、芝生広場上段を囲む傾斜地5,000㎡に植栽されている。

35年経った現在は、天狗巣病や腐朽菌の侵入などの病虫害、踏圧などの土壌劣化、日照不良などの影響により、ソメイヨシノを中心に樹勢の衰退が目立つようになっている。

今後も樹齢を重ねるごとに深刻な状況になることは間違いない。このため、当公園のサクラをいかに維持していくか。また、新たな後継樹をいかに植栽していくか、が大きな課題になっている。

### 今後の対応

#### (1)整備方針

基本方針にも記したが、植物公園として市民の要望に応えるためには、サクラ、特にソメイヨシノの本数、面積を増加することは必須と考えられる。また、現在ある多くの種類・品種についても維持、再生しながら更新していく。

#### (2)目的によるエリア分け

今後、一度に開花し、花見を楽しむエリアと、長期に様々な花色や花形を楽しむエリアを設ける。

[一度に開花し、花見を楽しむエリアの種類・品種]

○ソメイヨシノ ～ 花見に必須

○ヤマザクラ、エドヒガン ～ 病虫害に強く、長寿

[様々な花を長期に楽しむエリアの種類・品種]

○シダレザクラ ～ 美観上

○エバヤマザクラ ～ 広島市特有

○エドヒガン ～ 長寿

○カワヅザクラ

○ヤエザクラ など多品種。

#### (3)整備方法

##### ア. 維持・再生エリア

植栽している樹を維持し、衰退している樹を再生する。基本的に現在ある品種を保存。また、樹勢の衰退が目立つ樹は伐採し、新しい品種を植栽する。

##### イ. 新規植栽エリア

[一年次] 休憩展望塔南東及び芝生広場下段東の傾斜地にソメイヨシノを植栽する。

[二年次] うらら池の北東沿いにヤマザクラ、エドヒガンを植栽する。

#### (4)維持・再生方法

##### ア. 枯損・罹病枝の除去、枯損・衰退樹の伐採 ～落葉後の冬に随時実施。

##### イ. 後継樹の植栽

～枯損・衰退の伐採樹近く、および2～3年後に枯損する危険性が高い樹を見越して実施。

##### ウ. 定期的な枝の剪定

～落葉後の冬に随時実施。

##### エ. 病虫害防除

～一年を通じて業者委託により実施。

##### オ. 定期的な肥料の施用

～毎年、5～6月に固形肥料を施肥。

##### カ. マルチングの実施

～地肌が目立ち、根が表出しているところを中心に、腐葉土やバーク堆肥を敷く。

#### (5)年次計画

エリア	年次	一年次	二年次	三年次	備考
新規植栽エリア					
(1)		○			ソメイヨシノ
＃	(2)	○			ソメイヨシノ
＃	(3)		○		ヤマザクラ、エドヒガン
維持・再生エリア		○	○	○	毎年

#### (6)整備計画図

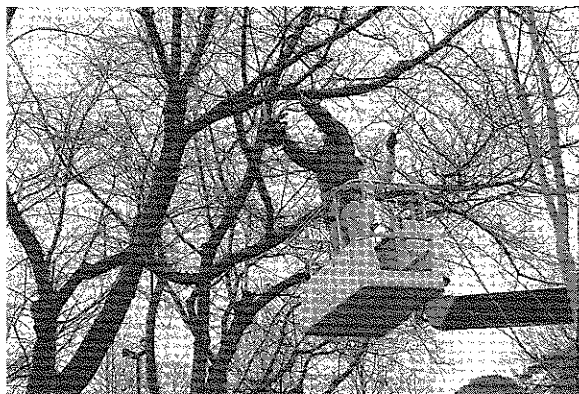
エリアごとに区分。(図1 参照)

○平成23年(一年次)実施

年次計画どおり、下記を実施した。

ア. 維持・再生エリア

平成23年3月14日～3月15日に天狗巣病を中心に罹病枝や枯損枝を高所作業車により剪定、除去した(写真1)。また、後継樹として新たにソメイヨシノ5年生苗木を1本植栽した。

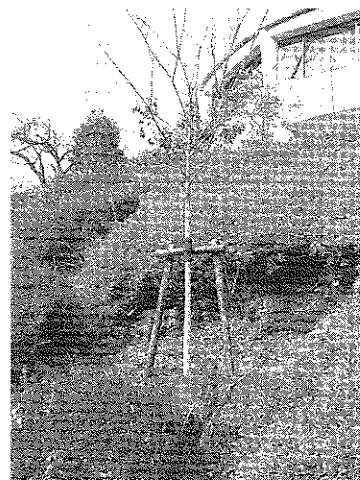


(写真1) 罹病枝・枯損枝の除去

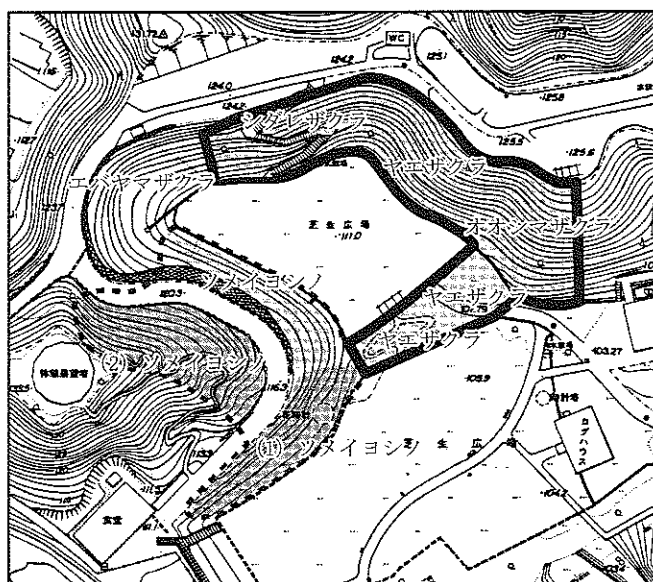
イ. 新規植栽エリア(1)、(2)

平成23年3月15日～3月18日にソメイヨシノ18本を8～9m間隔に植栽した(写真2)。

内訳は、休憩展望塔南東の傾斜地へ3年生苗木を13本、芝生広場下段東の傾斜地へ5年生苗木を5本。(図2参照)



(写真2) 苗木の植栽(休憩展望塔南東)



- ⋯⋯⋯ : 維持・再生エリア
- ▨ : 新規植栽エリア
- - - : 一度に開花し、花見を楽しむエリア
- ▭ : 様々な花を長期に楽しむエリア

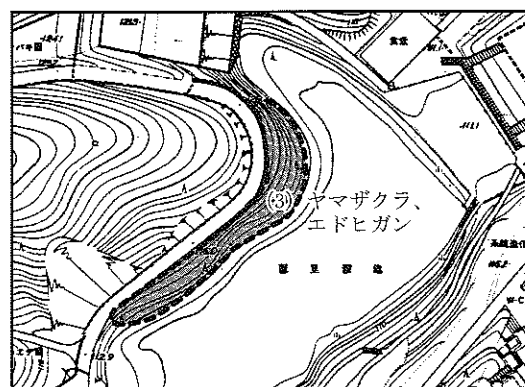


図1 整備計画図

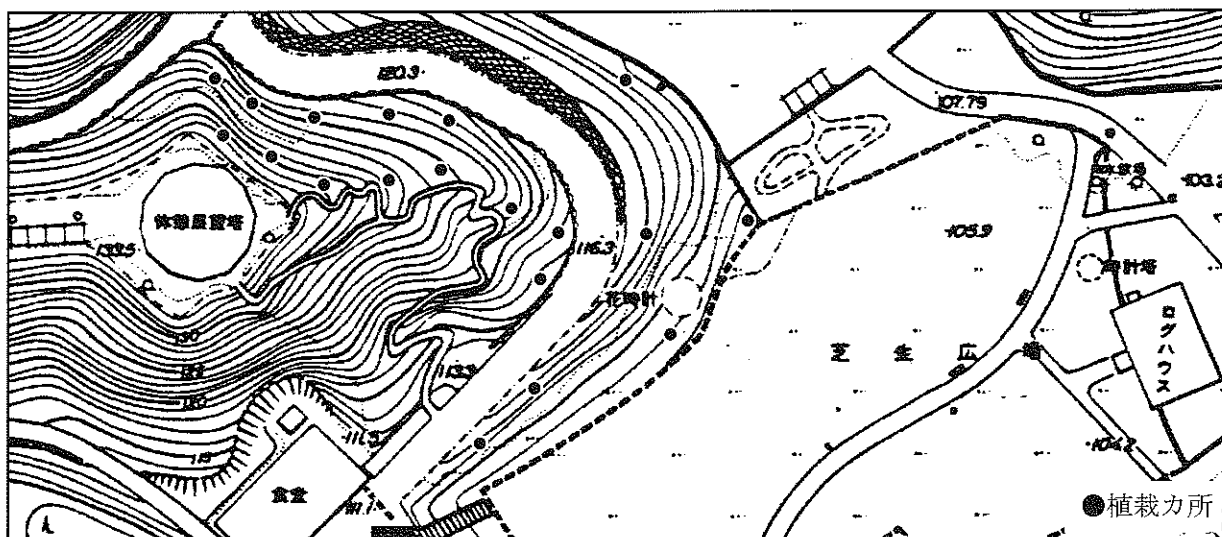


図2 位置図